

1 学校評価（教職員自己評価）より

(1) 実施時期と方法

- 7月下旬（上半期）と12月下旬（下半期）の年間2回実施。
- 10領域、51項目をA・B・C・Dの4段階及び自由記述により評価。
- C・Dの評価については、改善案を提示する。
- 関連領域についてまず2部会で話し合い、その後、検討事項について職員会議において全教職員で話し合う。

(2) 自己評価（下半期）まとめ

	自己項目	評価 (%)				
		A	B	C	D	
教育課程	各教科等の授業（時数の確保、内容の指導）の充実を図れたか。	5	25	2	0	
	校時表・時間割・月行事・週行事に無理はなかったか。	8	23	0	0	
	週案を活用し、教科の時間のバランスをとりながら授業を計画的に行うことができたか。	8	23	1	0	
	学校の教育目標・学級目標・教科経営目標等にせまれる教育活動ができたか。（授業のユニバーサルデザイン化）	5	27	0	0	
研修	研修計画は適切であったか。	8	23	0	0	
	本校の研究主題や自己の研究テーマにそって研修が積み上げられたか。	9	22	0	0	
	教材研究は十分に行えたか。	4	27	1	0	
	研究授業・協議を通して、自分の力量を高めることができたか。	4	27	1	0	
	専科・TT等の連携はよかったか。	11	21	0	0	
生徒指導	児童が社会生活において必要となる資質や能力を高めることができるよう、指導することができたか。	4	28	0	0	
	なかよし5カ条を身に付けるように指導し、規範意識を高めることができたか。	元気にあいさつ	4	24	3	1
		「はいっ」の返事	2	27	3	0
		履物の整頓	5	26	1	0
		黙って行動	1	19	11	1
		立腰	1	23	8	0
	いじめ・不登校問題・その他の問題行動に対し、未然防止に努めることができたか。	5	24	2	0	
	いじめ、不登校問題、その他の問題行動の事案が起こったとき、迅速に対応できたか。	10	21	1	0	
配慮を要する児童に対して、有効な手立てをとることができたか。	4	25	2	0		
報告・連絡・相談を適切に行うことができたか。	7	25	0	0		

	自己項目	評価 (%)				
		A	B	C	D	
人権・同和教育	人権意識を高めるための研修に努めたか。	15	17	0	0	
	各教科等それぞれの特質に応じ、計画的・系統的な学習を推進できたか。	6	26	0	0	
	自他の大切さを認めながら、支え合い、助け合う仲間づくりに努めたか。	8	23	0	0	
	なかよしの時間を計画的に進めることができたか。	0	16	3	1	
	道徳ファイルを有効に活用できたか。	0	17	2	0	
特別活動	学級活動において、話し合い活動や係活動を活発に行うことができたか。	2	17	0	0	
	行事等への参加で、特活のねらいが達成されたか。	8	24	0	0	
	特別活動は、児童主体で活動を進めていくものだとすることを児童に意識付けたか。	4	27	1	0	
道徳教育	年間計画通りに実施できたか。	6	13	0	0	
	授業のユニバーサルデザイン化の視点を取り入れた授業づくりに努めたか。	1	17	0	0	
	「考え、議論する道徳」への転換を目指し、授業改善に努めているか。	0	18	0	0	
	特別の教科・道徳についての自己研修に努めたか。	2	30	0	0	
	道徳的環境の整備に努めているか。(教室・校舎内掲示等)	5	27	0	0	
	道徳科の授業での取組の様子を学年・学級日より、道徳ファイルを通して、保護者に積極的に発信できたか。	0	16	2	0	
	道徳科の評価に向けて、一人一人の見取りを行うことができたか。	2	16	1	0	
特別支援教育	特別支援学級の児童との交流が主体的に図られているか。	担任(教師自身)	8	20	0	0
		クラスの児童	7	24	0	0
	学級内にいる支援が必要な子の学習や行動のつまずきに気づき、適切な支援をすることができたか。	4	26	1	0	
	特別支援教育コーディネーターとの連携が図られたか。	3	28	0	0	
	学年間で、支援が必要な児童の情報が共有できたか。	9	22	0	0	
情報教育	個人情報・成績等を机の上に置きっぱなしにしていないか。	13	19	0	0	
	校務系のデータが外に出ないように守られているか。	25	7	0	0	
	児童の1人1台端末が安全に保管されているか。	8	23	0	0	
	1人1台端末を活用し、双方向的、協働的な学習を日常的に行うことができたか。	1	28	1	1	
	プログラミング教育を、年間指導計画に基づいて計画的に行っているか。	1	27	3	0	
	発達段階に応じたデジタル・シティズンシップ教育を、学級で指導しているか。	11	20	0	0	
保健	健康観察を十分に行い、朝の会終了後、提出できたか。	21	10	0	0	
	学校管理下における傷病について、家庭への連絡を適切に行ったか。	16	16	0	0	
	けが防止のために呼び掛けができたか。	16	16	0	0	
	環境衛生面に気を配って、教育活動を行えたか。 (手洗い、うがい、ハンカチ、ティッシュ、姿勢、照明等)	11	21	0	0	
食育	衛生点検、適切な配膳、マナーなど、日常的な給食指導が継続的に実施できたか。	11	20	0	0	
	学級担任と栄養教諭が連携し食育指導(給食・授業・個別指導)を計画的に実施できたか。	8	13	0	0	

(3) 成果 (○) と課題及び改善策等 (◆)

教育課程	<p>○ 昨年度から通知表を2期制にしている。成績処理を長期休業中に行うことができ、学期末にゆとりが持て、児童との関わりも増えている。大きな業務改善になっている。</p> <p>◆ 新型コロナウイルス感染症が5類に移行したことで、様々な行事等が通常通り行えるようになった。ただ、行事や会の持ち方を検討しながら進めていく必要がある。</p>
研修	<p>○ 学年団を中心として、協力して研修を進めることができた。</p> <p>○ 人権・同和教育研究会の授業公開にあたり、デジタル・シティズンシップ教育について様々な校内研修を行うことで、学びを深めることができた。</p> <p>◆ 年間指導計画を作成する際、協働的な学習を行う時間を確保するようにし、どのクラスでも計画的に実施できるようにする。</p>
生徒指導	<p>○ 各学級の気になる児童について、月末の職員会（校内研修）において全教職員で情報共有して対応することができた。</p> <p>○ 教育支援センター等、関係機関と連携をすることで、児童に手厚いサポートをすることができている。</p> <p>◆ 「なかよし5カ条」が徹底しにくい。教師も児童も、しっかり意識できるようにする必要がある。</p>
人権・同和教育	<p>○ 「ワンポイント研修」については、「勉強になる。興味深く聞いている。」等肯定的な意見が多かった。今後も継続していきたい。</p> <p>◆ 以前に行っていた朝の「なかよし」の時間が「レッツスタディ」に変わっているため、「学級なかよし」の活動がしにくくなっている。来年度はどのようにするのか、検討しておく必要がある。</p>
特別活動	<p>○ 以前のオンライン集会から参集型に移行し、通常の集会活動が計画的に行えるようになった。来年度も今年度と同程度の回数、時間で行っていききたい。</p> <p>◆ 学級活動の話合いの時間に児童の自治的な活動が充実するように、場の設定などを工夫していきたい。</p>
道徳教育	<p>○ 道徳の授業については、計画通り行うことができた。今年度使用したワークシートは来年度の参考にできるように、ドライブに保存しておく。</p> <p>◆ 道徳の授業の工夫はもちろん、全教育活動を通して児童の心を育てることができているのかを見直せるようにしたい。</p>
特別支援教育	<p>○ 今年度はパレットや他の関連機関との連携を多く取り、就学指導につなげることができた。</p> <p>◆ 様々な特性の児童が増えており、支援方法も難しくなっている。支援計画・指導計画を基にして、それぞれの児童に合わせた指導を意識統一して行っていくことが必要である。</p>
情報教育	<p>○ デジタル・シティズンシップ教育については、校内研修で学んだことを授業に生かすことができた。それぞれの学年で工夫して取り組むことができている。</p> <p>◆ ICT支援員との打合せ、振り返りの時間を確保して授業改善に生かしていけるとよい。特にICTを生かした協働的な学びに関して、研修を深めていけるようにしたい。</p>
学校保健	<p>○ 学校保健委員会を機会として「健康貯金」についての取組を全校で行った。食事、運動、睡眠に関する児童の意識を高めることができた。</p> <p>◆ 月曜日の朝に行っている「清潔調べ」で、同じ児童が忘れていたという課題が見られる。翌日再確認をしたり連絡帳に書いたりするなど呼び掛けることで、習慣化につなげる。</p>
食育	<p>○ 今年度も栄養教諭と学級担任が連携して、日常的・計画的に給食指導が実施できた。学習した内容は保護者に「食育便り」などで伝えることで、家庭との連携を図った。</p> <p>◆ 後期になっても残食が減らなかったという実態がある。学級指導で、食べることへの感謝の気持ちや態度についての食育を継続して行っていく。</p>

